

NEW

## Fc 領域を狙い撃ち！部位特異的に標識できます

# oYo-Link 抗体ラベリング試薬

抗体にビオチン、クリックケミストリータグ（アジド、チオールなど）、ビオチン、オリゴヌクレオチド、細胞傷害性薬物（ADC）などを**部位特異的（Fc 領域に最大 2 カ所）**に標識できます。

脱塩や濃縮、抗体精製が不要のため、抗体量のロスもありません。

### 原理・操作方法概略



#### ステップ① oYo-Link を抗体と混合する

→ oYo-Link 中の抗体結合ドメインが、抗体の Fc 領域に結合します。

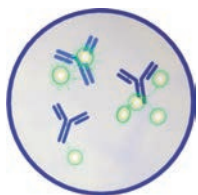
#### ステップ② 氷上で UV (365 nm ; ブラックライト) を照射\*1 する

→ 架橋反応（共有結合）が起こり、抗体の Fc 領域に標識物が最大 2 カ所ラベリングされます。

実際の操作時間は 30 秒で、2 時間以内に標識が完了し、そのまま使用できます。

\*1 oYo-Link を用いて標識した抗体と未標識抗体を用いて、ELISA および Cell binding assay で結合試験をしていますが、結果に違いは確認されていません。

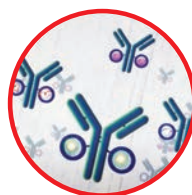
### ここがすごい



#### ■従来の抗体標識キット

- ✓ 不均一な標識  
(部位がランダム、複数の標識物がラベリングされてしまう)
- ✓ 抗原結合部位に標識されうる  
(抗体活性に悪影響を及ぼす)

市販の抗体ラベリング試薬の多くは、抗体のリジン残基側鎖のアミノ基 (NH<sub>2</sub> 基) を介して抗体を標識します。しかし抗体には多くのリジン残基が存在し、抗体ごとにリジン残基の数と位置が異なるため、標識が部位非特異的になり、不均一に生じます。そのため、ELISA などイムノアッセイの際の抗体の配向性はランダムになります。



#### ■oYo-Link (オヨリンク)

- 均質な標識抗体が得られます！
- ✓ Fc 領域に**部位特異的なラベリング**が可能
- ✓ 抗原結合部位（可変部位）に影響しない
- ✓ **最大 2 カ所**に標識（重鎖毎に 1 つずつ）

oYo-Link は抗体の Fc 領域のみに最大 2 カ所、共有結合で標識します。抗体の抗原結合部位に影響を与えないため、実験の信頼性と再現性が向上します。また、ELISA などイムノアッセイの際の抗体の配向性を均一にし、抗原結合部位の密度の改善をもたらすことによって、感度を向上させる可能性があります。

### 特長

■部位特異的（Fc 領域、最大 2 カ所）な抗体標識

■試料と混合（約 30 秒）し、UV 照射（2 時間）

※専用の UV リンカー（下記）が必要です。



専用の UV リンカー（別売）  
(#AT8001-D-UPT)

2 週間の貸し出しデモを実施しています。  
詳細はフナコシ Web をご覧ください。

■抗体、バッファーとの互換性

- 幅広い動物種の IgG 抗体で使用できます。

■前処理することなく標識可能

- 脱塩、濃度調整は不要。  
1 反応あたり 1 μg の抗体を標識できます。
- 50 μg/ml という低濃度でも標識できます。

### 製品ラインナップ

#### ①動物種

ヒト、マウス、ラット、ウサギなど幅広い動物種の IgG 抗体で使用できます。\*2

#### ②標識物

- ご希望の配列のオリゴヌクレオチド（一本鎖または二本鎖）
- クリックケミストリー（アジド、テトラジン、チオール）
- ビオチン、His-12 tag
- 細胞傷害性薬物（MMAE, MMAF, DM1） など

#### ③容量

25 μg または 100 μg の抗体が標識可能な 2 種類の包装をご用意しています。

\*2 マウス IgG<sub>1</sub> 抗体用とその他の IgG 抗体用で試薬が異なります。マウス IgG<sub>1</sub> 抗体用の試薬はマウス IgG<sub>1</sub> 以外では使用できませんのでご注意ください。他の動物種については、共通して試薬をご利用いただけます。

### ご注文方法／価格

詳細はフナコシ Web をご覧ください。

[メーカー：ATH]